



地域なんでも情報局

第26号
 平成29年3月15日発行
 長崎市社会福祉協議会
 長崎市上町1番33号
 TEL: 095-828-1281

『長崎県民生活』
 なるほど生活の知恵を伝えるおまかせサービス

経済状況の悪化や雇用の不安定化等に伴い、平成23年度以降、毎年生活保護受給世帯が増加し、生活に困窮する世帯が増加する背景には、孤立・病氣・高齢化など様々な要因があり、単に「自己責任」という考えだけでは安易に片付けられない時代になってきています。講演では、生活困窮者自立支援法が施行された背景や制度について説明が行われ、当該制度と関係が深い生活保護制度についても「〇×クイズ」などを用いながら制度の仕組みに関する知識を学びました。



「分かりやすい！」と参加者の評判も上々！

去る平成29年2月26日（日）、山里地区ふれあいセンターにて、長崎市社協高尾支部（以下「高尾支部」という。）主催の『福祉研修会』が開催されました。高尾支部では、自治会関係者や民生委員児童委員、老人クラブ関係者などの支部役員を対象に年一回この福祉研修会が開催されています。今回は『生活困窮者の支援について』というテーマに基づき、※長崎市生活支援相談センター（以下「センター」という。）から講師（本会職員）を招き、対談形式での講演が行われました。

講師の話によると、先述のように「誰でも生活困窮状態に陥るリスクを持っている」という認識を持ち、現にそのような状態に陥った時に的確に当該センターのような相談機関につながる事が大切とのこと。但し、様々な事情で、自分で相談機関につながらない方々も地域には多くいることから、近隣住民からの声かけや情報提供がますます重要になってくるということが分かりました。

事例を通して考える

制度の概要に関する説明の後には、実際にセンターで対応した相談が事例として紹介され、対象者が抱える問題を、どのような制度やサービスを活用しながら解決に結びつけたのかということを学びました。センター職員は数十回にもわたる対象者との関わりの中で、対象者の思いを受け止めながら少しずつ支援を進めているそうです。また、複雑な問題を抱えた対象者（又は世帯）は、地域から孤立する傾向があることから、単に対象者が抱える個々の問題を解決するだけではなく、切れてしまった「対象者と地域とのつながり」を再構築することが自立への大切なポイントとのこと。実際、高尾地区で起こったケース



においても、自治会関係者や民生委員だけではなく、近隣住民の方々にも様々な形で支援に関わっていただき、問題が解決した後も声かけや見守りなどにご協力をいただいているそうです。

まとめ

ここ数年、法律や制度の改正に伴い様々な相談機関の設置や専門職の配置が行われていますが、どんなに専門職が頑張っても、住民同士が互いの暮らしを支え合える地域でなければ問題を抱えたまま孤立する住民は増える一方です。しかし、一つのケースを通じて支援に関わった方々の気づきと共感の気持ちや、支え合いのまちづくりへの確実な一歩になるのだと思えます。「自分は大丈夫。自分さえよければいい。」このような考えを持つ住民が増えていくなか、おられる昨今ですが、そんな中において「他人の不幸を放っておけない」という思いを、今回研修会にご参加いただいた方々の熱心な表情から感じ取ることが出来ました。



長時間の研修、お疲れ様でした。

※長崎市より委託を受け、本会（長崎市社会福祉協議会）が運営をしています。
 [電話 828-0028]

がばしまオオウナギ
うなぎ

野母崎樺島町は、長崎半島の先に浮かぶ島で町が形成されており、赤色の樺島大橋で、本土の脇岬町と島が結ばれています。もともと漁業のまちとして知られ、昔はいりこが名産でしたが、今現在は加工品が中心になっていくとのこと。しかし、マダイやアジは今でも一本釣りで行われており、ブランドになっている。若い漁師さんが頑張っている。釣り上げていくそうです。また、観光スポットにもなっている国指定天然記念物のオオウナギが住む『オオウナギ井戸』もあります。

NEW!
野母崎樺島町長 早田徹さん

野母崎樺島町長 早田徹さん

樺島大橋

樺島灯台ウォーキング
 2017年3月20日(春分の日)

野母崎樺島町は、長崎半島の先に浮かぶ島で町が形成されており、赤色の樺島大橋で、本土の脇岬町と島が結ばれています。もともと漁業のまちとして知られ、昔はいりこが名産でしたが、今現在は加工品が中心になっていくとのこと。しかし、マダイやアジは今でも一本釣りで行われており、ブランドになっている。若い漁師さんが頑張っている。釣り上げていくそうです。また、観光スポットにもなっている国指定天然記念物のオオウナギが住む『オオウナギ井戸』もあります。

西北地区 夢 (you & me) サロン

市内各地では、高齢者の閉じこもりを防止するとともに、住民との交流や親睦などを通じて、心身の健康や生きがいづくり、地域の仲間づくりの場として高齢者ふれあいサロンの開設が進んでいきます。平成29年2月現在、市社協から共同募金を財源とした助成金の交付を受け活動を行うサロン(社協型サロン)が94か所。市の助成を受け運営を行うサロン(市型サロン)が47か所開設されており、その他、自主グループとして社協や市の助成を受けずに自分たちで精力的に活動されているところもあります。



こちらのサロンでは、西北町熊ヶ倉公民館において、毎週月曜日の13時から15時の間にサロン活動が行われています。

熊ヶ倉自治会長兼夢サロン代表の栗村会長に、今後のサロン運営の意気込みを伺うと、「熊ヶ倉自治会では、自治会、光寿会(老人会)、学童保育といった地縁団体との協働プロジェクトとして、鯉のぼりやイルミネーションの飾りつけを行っており、日頃からプロジェクトに貢献していただいている住民の方々にもサロンへご参加いただき、サロンを通じて恩返しをしていきたい」と語られました。

夢サロン&ゆうゆうクラブ 合同サロン



運動後の茶話会では、自然とお互いのサロンについて情報交換をする流れとなり、両サロンの交流を深めることができました。

最後にハイタッチ☆

夢サロンの申請は可なり...

夢サロンでは、サロン活動を行うにあたり、長崎市のサロン助成要件となる「高齢者ふれあいサロンサポーター養成講座」を現在4名の方が修了されています。昨年夏頃から市のサロンの申請を視野に入れ、市の担当保健師や地域包括支援センターの職員、市社協へ相談を続け、3月中には市のサロンとして活動できること目指しているそうです。(※3月1日より市のサロンとして活動開始)

「古賀地区やってみゅ〜が わがまちプラン」ができました!



このプランは、古賀地区内の各自治会の回覧板で、住民の皆様に周知されました。このプランでは大きく4つの分野で今後のまちづくりのため、活動の提案しており、その分野とは「高齢者」「子ども」「社会参加」「防災・防犯」の4つです。例えば、高齢者分野では「ひとり暮らしや認知症の高齢者の見守りを行う」とか、子ども分野では「通学路の安全確保を行う」、社会参加分野では「地

古賀地区では、一昨年に住民の皆様に参加していただき、延べ80名の参加者から様々なご意見をいただきました。その後、住民座談会で出た意見を元に、今後のまちづくりを考へる会議として「古賀地区まちづくり具現化検討委員会」(以下「委員会」という。)を立ち上げました。

この「委員会」は、長崎市社協古賀支部が発足を呼びかけ、自治会や民生委員、PTA、学校関係、福祉施設といった古賀地区の関係団体の代表者など約40名に参画いただき、昨年の2月から9月までの間に延べ5回の話し合いを重ね、今後の古賀地区でのまちづくりのための計画である「古賀地区やってみゅ〜がわがまちプラン」(以下、「プラン」という。)を策定しました。

「情報交換会」は、各部会の状況把握も含めて、それぞれの部会だけでは解決できないような問題が起きた場合、この「情報交換会」で発信し、他の部会や地域などに協力を求め、地域全体で協力・連携ができるような体制を作っていく予定です。古賀地区での活動はまだ始まったばかりですが、住民の皆様の想いがこもったこのプランは、古賀地区をより住み良いまちにするかと思えます。

「防災・防犯部会」といった名称で、それぞれ部会の名称になっていきます。活動を推進していくための協議や協議の頻度などについては、部会ごとに話し合っており、部会ごとに活動の推進を行っていきます。そして、4か月ごとに部会の主だったメンバーが集まって、進捗状況の報告や情報交換を行う「古賀地区情報交換会」(以下、「情報交換会」という。)を開催することも予定しています。この

域交流の促進のために交流イベントを開催する」などといった活動をしていく予定になっています。

さらに、古賀地区ではこのプランに記載してある活動を「部会」というものを立ち上げることにしました。先ほどの4つの分野ごとに部会を作り、それぞれ部長と副部長を筆頭に10人ほどのメンバーで構成されています。4つの部会は「高齢者部会」「子供部会」「社会参加部会」「防災・防犯部会」といった名称で、それぞれ部会の名称になっていきます。活動を推進していくための協議や協議の頻度などについては、部会ごとに話し合っており、部会ごとに活動の推進を行っていきます。そして、4か月ごとに部会の主だったメンバーが集まって、進捗状況の報告や情報交換を行う「古賀地区情報交換会」(以下、「情報交換会」という。)を開催することも予定しています。この



長崎市社会福祉協議会 会員加入のお願い



←横尾元気サロン ↓ダイヤモンドサロン



平成28年12月6日に開設された横尾元気サロンでは、毎週火曜日、スクエアステップや体操、絵手紙などを楽しく過ごしています。

平成28年12月6日に開設されたダイヤモンドサロンでは、毎週日曜日、園芸やお菓子作り、健康麻雀や脳トレなどをして明るく楽しい時間を過ごしています。

地域でのたすけあい

市社協では、子どもから高齢者まで「誰もががだんのくらしの中で、しあわせを感じる笑顔あふれるまち」を「ながさき」をみんなで作ることを目指して、様々な地域福祉活動を行っています。

社協会費は、市民の皆さまの参加や協力によって地域福祉活動を進めるために重要な役割を果たしています。会員になっていただくことで市社協が行う福祉活動を資金面で支え、地域福祉活動に参加いただくとともに、つながります。

市社協が進める地域福祉活動の主旨に賛同し、財政的にご支援・ご協力いただける社会協会員を募集しております。市社協の活動をご理解いただき、ひとり

社協会費の種類と金額

| 種類 | 金額 |
|----------------|--------|
| 賛助会員(個人) | 1,000円 |
| 団体会員(法人・事務所など) | 3,000円 |

※何口でもご加入いただけます。
※会員加入・会費は年度ごとに更新となります。(4月から1年間)

でも多くの市民の皆さまに社協会員へご加入いただきますようご協力をお願いいたします。

詳しくは業務係までお問い合わせください
電話 828-1281

高齢者ふれあいサロン 開設状況

①週1回開催型...47箇所
②月1~2回開催型...94箇所
※平成29年2月28日現在